

平成 28 年 9 月 16～19 日、北海道大学札幌キャンパスにて開催された日本鳥学会 2016 年度大会に行ってきました。当財団からは嶋田と高橋が参加し、口頭発表 1 題、ポスター発表 1 題を発表したほか、2 つの自由集会で話題提供をしました。以下、発表内容の概要を紹介します。



#### 口頭発表

##### ・ UAV を用いたマガンねぐらの環境収容力の推定（嶋田哲郎）

UAV (=ドローン) の空撮写真からねぐらにいるマガンの個体間距離を求め、その個体間距離と伊豆沼・内沼のマガンの総個体数にもとづいて、マガンのねぐらに必要な水面の面積を推定しました。その面積は、ハスが無くねぐらとして利用可能な水面の 22.9%～32.5%でした。伊豆沼・内沼ではハスが年々拡大し、水面の 85%を占めています。しかしそれでも、ねぐらとしての収容量にはまだ余裕がありそうであることがわかりました。

#### ポスター発表

##### ・ 宮城県伊豆沼・内沼におけるクイナ・ヒクイナの生息状況と生息環境（高橋佑亮）

クイナとヒクイナは、湿地の草むらに見られる小型の水鳥です。今回、伊豆沼・内沼の全域にわたって両種の生息状況を調査した結果、クイナは年によって 2～4 羽が秋から冬に生息していることがわかりました。一方、ヒクイナは全く記録されず、残念ながら現在は伊豆沼・内沼には生息していないものと考えられました。

#### 自由集会「チュウヒ研究の「今、～最新の知見と保全上の課題～」話題提供

##### ・ 秋田県八郎潟干拓地のチュウヒ（高橋佑亮）

チュウヒはヨシ原に見られる草原性の猛禽類です。日本では生息数が少なく、絶滅が危惧されています。今回の自由集会で高橋は、本州以南最大の繁殖地である八郎潟干拓地における、チュウヒの繁殖生態や採食生態について研究成果を発表しました。また、遷移の進行によるヨシ原の衰退がチュウヒの繁殖を脅かしていることを指摘しました。

#### 自由集会「ドローンを使った鳥類調査」話題提供

##### ・ チュウヒの繁殖状況調査におけるドローンの試用例（高橋佑亮）

最近話題のドローン。鳥の生態調査でも使われ始めています。萌芽期にある今、空撮による鳥への影響や効率的な活用方法について知見を共有することが本集会の目的でした。高橋は今回、ドローンを用いてチュウヒの巣内ヒナ数を調査した事例を紹介し、上空から地上の巣やヒナを把握できる限界の高度や、ドローンに対する親鳥の反応について報告しました。